

答辞

暖かな日差しが春の訪れを告げ、新しい季節を感じられるようになりました。本日は、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと私たち卒業生のためにこのような素晴らしい卒業証書授与式を挙げて頂き、真にありがとうございます。卒業生一同、心より感謝申し上げます。

サビエル高校に入学した日から卒業するこの日まで、本当にたくさんの思い出を作ることができました。この日が来るのは思っていたよりも早く、あっという間に高校三年間が終わろうとしています。学校に来て授業を受ける平凡な毎日の繰り返しでも、サビエル高校のみんなはそんな生活に色を添えてくれ、私にとってかけがえのない時間になっていました。一人ひとりそれぞれに楽しかった思い出、苦しかった思い出、笑いあった思い出…さまざまな場面で思い出が思い浮かんで来ます。

新しい環境を迎え緊張と不安でいっぱいだった入学式、1組はクラスの人数が少なく全競技ほぼ全員参加となったスポーツフェスティバル、遅くまで残り準備をしたサビエル祭、学年の垣根を越えみんなでひとつの問題について話し合った修養会など色々な行事がありました。

特に、サビエルでしか経験の出来ないイベントでは新しい自分を見つけるきっかけとなりました。アクティブラーニング授業では自分の意見を言うことの難しさや助け合って勉強することの大切さに気づくことができました。私はサビエル高校に入学するまで恥ずかしがり屋で自分に自信がなく自己表現することが苦手でした。しかしここでは私の意見を真剣に聞いて考えてくれる友達がいて、自分から意見を発してもいいんだという勇気が持てました。みんなが個性的で様々な考えを持っており、こんな考えもあるんだと気づかされ、多角的に物事を考えられるようになりました。留学生との交流では片言の英語を駆使してコミュニケーションを図り、互いの文化の違いを知ることができました。

部活動では三年間同じメンバーで苦楽を共にしてきました。私は陸上部のマネジャーで、今まではスポーツをする側に立っていましたが、選手をサポートするという立場に初めて立ちました。最初はサポートしたらよいかかわからず、ただただタイムを計ることしかできませんでした。選手みんなに迷惑をかけてしまったこともありました。しかし、みんなが頑張っている姿を見て、自分がしっかりしなければならぬと思うようになり、だんだんと自分で状況を判断して行動できるようになりました。駅伝や試合に出たくないと言いつつも一生懸命練習するみんなの姿は本当にカッコ良かったです。

私は高校で家から通える距離であるにもかかわらず寮生活を選択しました。姉も寮だったからか自然とその選択をしていました。共同生活が出来るのかなど沢山の不安がありました。入寮して1ヶ月は部屋に戻ると1人という孤独感で泣いてばかりいました。けれども、いつの間にかその不安は無くなっていました。なぜなら一緒にご飯を食べ、たわいもないことで笑い合える友達ができ、難しく考えなくていいんだと思えるようになったからです。学校への登下校は3分もかからないため、他学校の生徒のように遊びに行くことはできませんでした。どこかに行く時は大体いつもマックスバリューでした。何気ない会話をしながら歩くその道のりは、今となっては懐かしい思い出のひとつです。テスト期間には、夜遅くまで勉強している寮生に励まされ、教え合いながら勉強できたことは心強かったです。特別な思い出は少ないけれど平凡な日常こそが大切なんだということに寮を離れて気づけた気がします。高校3年間、家族より長い時間を共にしたみんなは第2のファミリーです。一度は離れてしまうけれど、またいつかみんなが集まることのできる日があると思います。

在校生のみなさん、高校3年間様々な選択が待っています。高校生の間に限ったものではないかもしれませんが、どの選択も今だから選べる道です。自分には向いていないからと後ろ向きになるのではなく、将来につなが

る過程だと思っいるんなことにチャレンジしてみてください。もし躓いてしまった時には1人で悩まず周りを見渡してみてください。きっとあなたの周りには、話を聞いて、支えてくれる友達、先生がいるので頼ってください。沢山の思い出が詰まった高校生活になることを願っています。

先生方、どんな時でも私たちを見守り、指導して下さいありがとうございました。授業だけではなく放課後に質問に行った際にも快く応えてくださいました。サビエルのアットホームな雰囲気は先生方の優しさのおかげだと思っています。こんなに親身に寄り添って下さる先生方のいる学校は他にはないと思います。本当にありがとうございました。

寮の職員の皆さん、シスター、寮生が快適に暮らせるようサポートしてくださったおかげで健康に楽しく寮生活を送ることができました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

最後にいつでも味方でいてくれた家族のみんなにもお礼を言いたいと思います。寮に入り距離は離れてしまっていたけれど、家に帰った時には好きなご飯を作ってくれたり、遊びに連れて行ってくれたりと感謝でいっぱいです。実家の安心感は言葉にできません。これからはこれまで以上に迷惑をかけてしまうと思いますが、温かい目で見守っていてください。恩返しができるよう頑張っていきます。

この制服を着るのも今日が最後です。それぞれの道に進むんで行くのだと分かっているけど、やはり寂しさはどうしようもありません。ですが、ここにいる最高のみんなと一緒に卒業ができる嬉しさも噛みしめています。明日からは、それぞれが自分の道に進み、歩んでいきます。楽しい道だけではなく苦しい道も待ち受けているでしょう。そんな時こそサビエル高校で学んだことが活かされていくと思います。離れていても繋がれる時代です。他者ととともに、他者ためにという心を胸に、仲間がいることを忘れずに精進していきます。

最後にサビエル祭の合唱コンクールで歌い、心に残っている詩の一節を紹介したいと思います。

“あなたに会えて ほんとうによかった 嬉しくて 嬉しくて 言葉にできない “

サビエル高校のますますの発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。

2020年2月29日

卒業生代表 荒瀬恵里